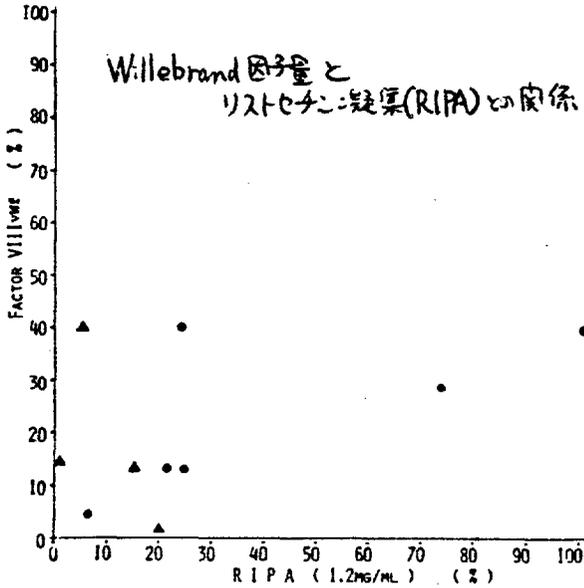


図 3



血小板無力症血小板の電顕的観察

帝京大学第一内科

安 部 英
風 間 睦 美
森 岡 真 知 子

帝京大学第一解剖

大 門 建 夫

目的：血小板無力症血小板の機能障害が形態的異常に裏付けられ得るものかについて、血小板の各種染色法を行ない電顕的に観察した。

症例：1才6ヶ月の女子。家族歴に特記すべきことはないが、生後間もなく紫斑が頻発することと先天性股関節脱臼を発見された。非観血的整復は成功せず観血的整復を目的として帝京大学整形外科に入院。

入院時検査所見：軽度の低色素性貧血以外に一般的検査では異常がなかったが、凝血学的検査では血小板数 $2.9 \text{ 万}/\text{mm}^3$ 、出血時間30分以上、血餅退縮能 (Tocantins 法) 0%、PF₂ availability (Spaet and Cintron 法) は明らかに減少していたが、PF₂ content は正常であった。血小板凝集能はエピネフリン、ADPあるいはコラゲン凝集は各濃度で認められず、リストセチンや牛フィブリノゲン凝集は一次凝集のみが認められた。



電顕的観察：

①患者血小板の大きさについては直径5 μm 以上の大型血小板が比較的多く、かつそれらは外形が不規則であった。

②微小管の走行はとくに大型血小板で不規則で、電顕像では血小板断面に横断または縦断された数本の束として血小板膜直下に認められた。微小管の走行異常は血小板外形に影響し、外形の不規則性はこのためと考えられた。

③ Surface connected system (SCS) はしばしば membrane complex が血小板中央に蜷集する像が認められ、時には血小板全体が膜様構造物で占められているものもあった。

④ dense tubular system (DTS) は正常に分布していたが、屢々、リボソームの付着した粗面小胞体として存在し、時には golgi 装置迄混じていることがあった。

⑤ グリコゲン染色を行なうと、非常に多くの β 型グリコゲン顆粒が蓄積している血小板が認められ、本疾患に解糖系の異常が存在することと考え合わせ興味ある所見であった。

⑥ カルシウム染色を行なうと血小板膜、 α 顆粒、濃胞体、糸粒体および SCS の Ca は正常と同様に認められた。各種の凝集剤を加えた場合、凝集はもちろん認められないが、顆粒の放出や細胞内 Ca の局在性にも変化は認められなかった。

結論：血小板無力症の血小板には大型のものが多く、これらの微細構造では微小管、SSC、DTS あるいはグリコゲン蓄積状態などに異常が認められた。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

目的:血小板無力症血小板の機能障害が形態的異常に裏付けられ得るものかについて、血小板の各種染色法を行ない電顕的に観察した。

症例:1才6ヶ月の女子。家族歴に特記すべきことはないが、生後間もなく紫斑が頻発することと先天性股関節脱臼を発見された。非観血的整復は成功せず観血的整復を目的として帝京大学整形外科に入院。